

セーブ・ザ・チルドレン 2022年「夏休み 子どもの食 応援ボックス」利用者アンケート結果



2022年10月
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

<2022年 夏休み 子どもの食 応援ボックス実施概要>

【実施期間】	・申込受付：2022年6月13日～6月21日 ・発送：7月23日より順次
【配布世帯数】	3,200世帯 （※期間中に申し込みがあった5,644世帯のうち、書類などで申込条件を満たすと確認でき、かつ抽選で当選した3,200世帯に発送し、受け取りを確認した）
【申込条件】	1. 日本国内に居住する 2. 0歳～18歳までの子どもを扶養する 3. 住民税非課税世帯またはそれに準ずる
【配布内容】	・食料品セット（米5kg、麺、副菜となるレトルト食品、調味料、お菓子など） ・日用品・文房具 ・情報提供（子どものこころのケアのリーフレットなど）
【実施目的】	長期休暇中に栄養不足に陥りがちな、経済的に困難な状況にある家庭の子どもたちの食・栄養状況改善のため。

<アンケート調査からわかったこと>

1. 【子どもに関わる費用の支払い困難経験】

過去1年の間に、経済的な理由により、子どもに関わる費用が支払えなかった経験について質問したところ、日々の食料は5割以上、新しい衣類は6割以上が支払えなかった経験があった。

2. 【体験のはく奪】

海水浴や美術館など、長期休暇中に子どもが経験するような余暇レジャーの体験について、経済的な理由からできなかったことはあるかという質問に対し、54.3%が「あった」と回答した。

3. 【既存の制度に対する認知度の低さ】

就学援助や児童手当など、義務教育年代の子どもがいる世帯への支援制度は広く知られ、活用されているものの、高校以上の支援制度について、認知度が低いことがわかった。また、新型コロナウイルス感染症に関する緊急支援制度についても、全体的に認知度が低いことがわかった。

4. 【長期休暇中の食費の増加】

夏休みに給食がないことでどれくらい出費が増えるかという質問

に対し、給食がある時期と比較して平均2.2万円（中央値2万円）、食費が増加することがわかった。

5. 【食事の頻度】

長期休暇中も昼食を毎日食べる割合は64.3%となり、長期休暇中の食事の回数が減っている子どもが一定数いることがわかった。

6. 【物価高の影響】

事後アンケートに回答した97.5%の世帯で、食費や光熱費、日用品など、生活に必要なものの物価上昇の影響を感じていた。

7. 【生活への不安】

困っていることや、行政や社会に対して伝えたいことはあるかという質問に対し、多くの人が生活に対する不安を述べた。特に、高校や大学への進学費用、家賃などの住宅費用、仕事や収入に関する心配、ひとり親世帯に対する支援の必要性、食費の心配などがみられた。

*1～5,7は、2022年6月の申し込み時のアンケート結果より（有効回答3,200件）。6は、2022年9月に実施した事後アンケート結果（有効回答1,544件）より。

< 1. 利用世帯の傾向 > 子どもを1～3人養育する、パート・アルバイトの30～40代のひとり親の女性が多い

申し込み時のアンケート結果より（有効回答3,200件、アンケート回収率100%）

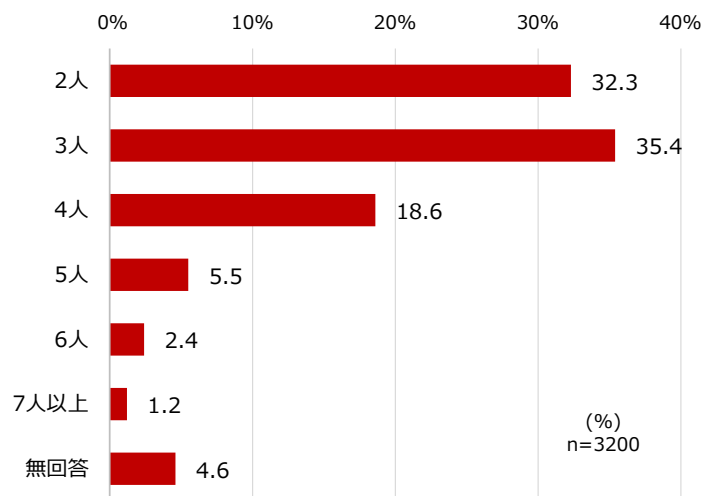
保護者の性別

92.7%が女性、2.4%が男性、その他または無回答が4.9%

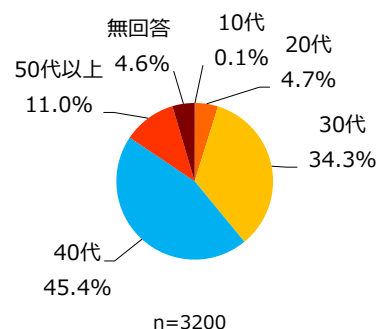
世帯状況

91.8%がひとり親世帯、3.2%がふたり親世帯、その他または無回答が5.1%

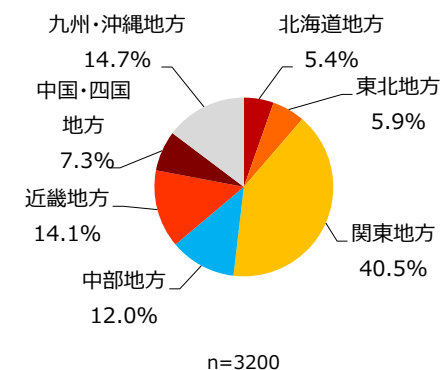
世帯人数



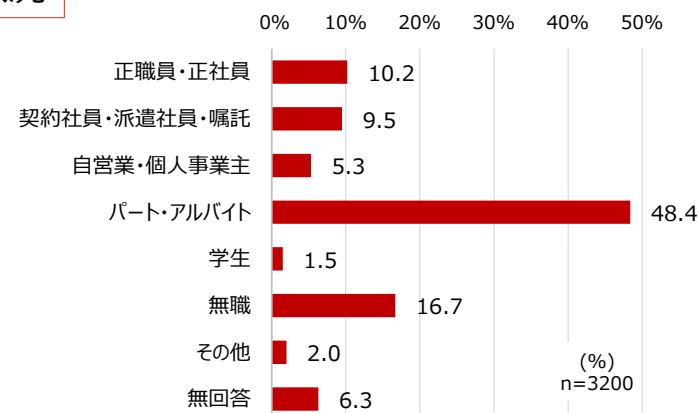
保護者の年代



居住地域



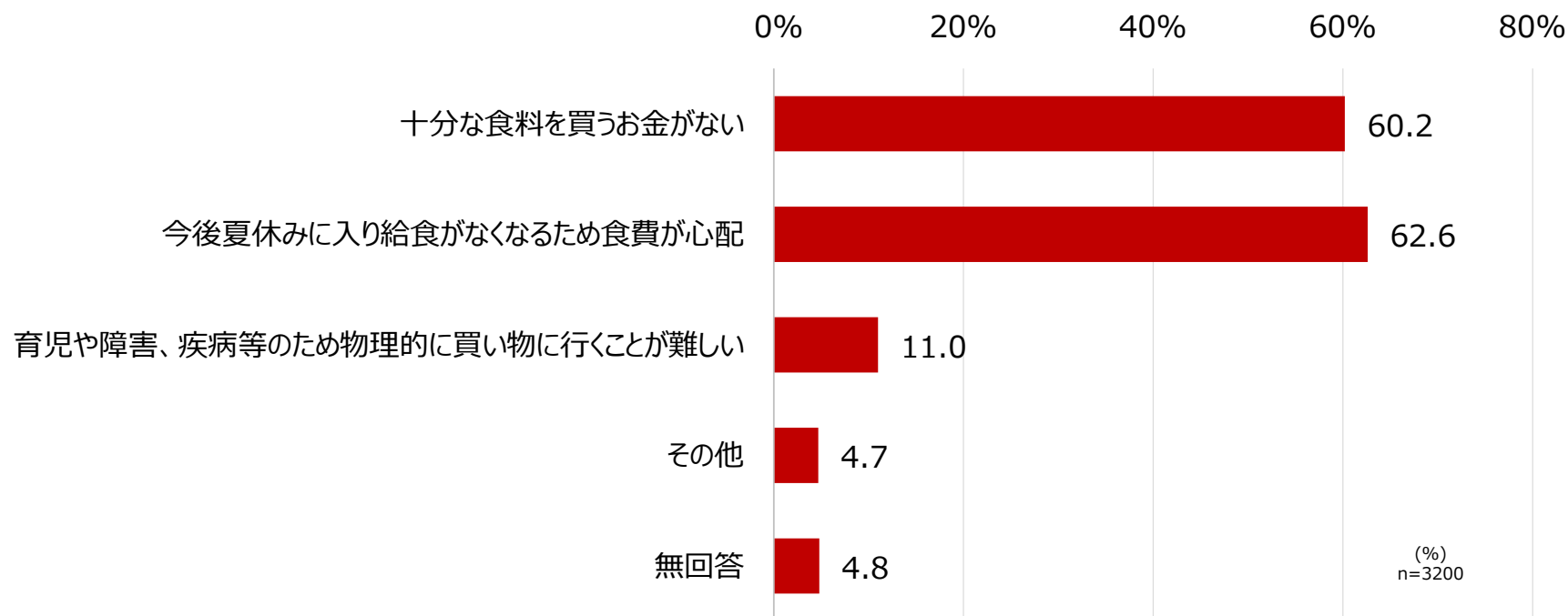
就業状況



※就業状況は、養育者が2人以上いる場合は1人目のもの

< 2. 申し込み理由 >

申請時の質問：本ボックスの申し込み理由を教えてください。（任意、複数回答、有効回答数3,200世帯(人)）



- その他の内容（一部）
 - ・ 子どもの障害のためにかかる出費が大きく、食費にあてるお金が減っているため。（30代・女性）
 - ・ 値段がどんどん上がってきていて日用品などあまり買える余裕がないです。（30代・女性）
 - ・ お腹がすいた、という言葉を使わせないためにもほとんどが食費と生活必需品に使われるため洋服等を十分に買ってあげられません。（40代・女性）

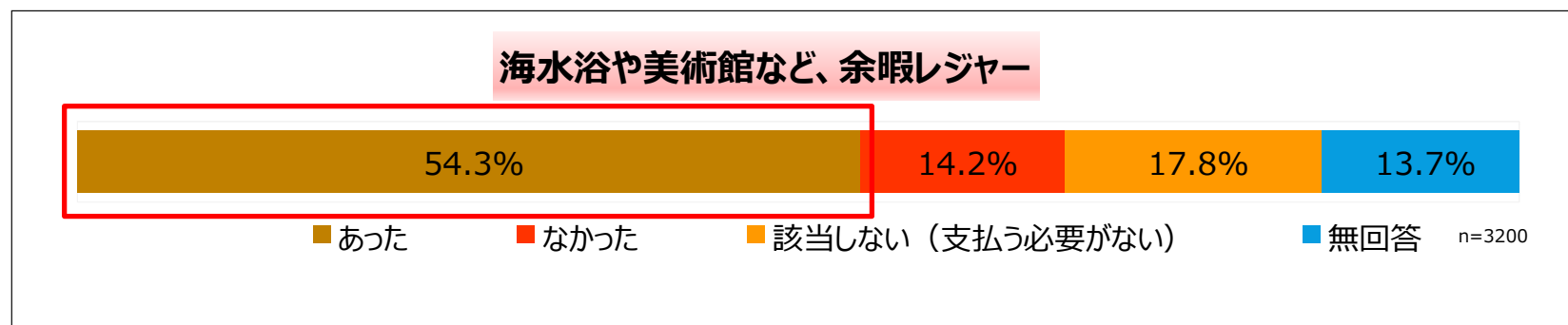
*自由記述は、原文のままです。ただし、明らかな誤字・脱字は修正したり、原文から一部を抜粋して文意が変わらない範囲で編集している場合があります。
() 内は回答者の年代・性別です。

<3. 支払い困難の経験>

申請時の質問：あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由により、子どもに関わる下記の経費が支払えないことがありましたか。
(任意、単一回答、有効回答数3,200世帯(人))

	日々の食料	新しい衣類	衛生用品	住宅費	制服など	部活動関係	オンライン 学習費	塾等の 学習費	入学金など 進学費用
あった	51.9%	66.8%	31.2%	29.7%	41.2%	27.7%	26.2%	29.5%	22.7%

n=3200

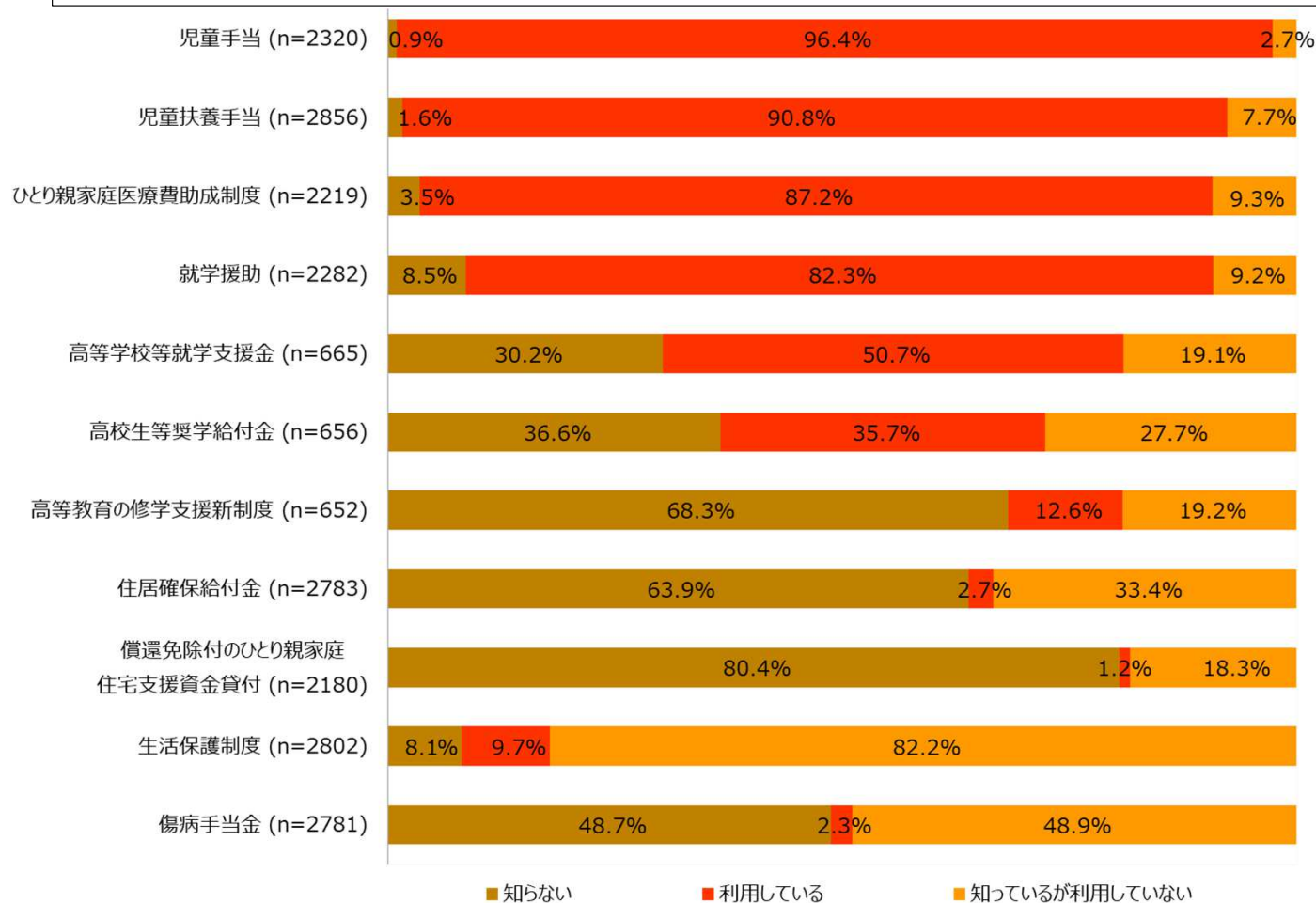


アンケートに回答した3,200世帯のうち、日々の食料は5割以上、新しい衣類は6割以上の世帯で、支払えなかった経験があった。（これまでの調査結果との比較は14ページ参照）

また、今回初めて尋ねた余暇レジャーでは、経済的な理由により支払えなかった経験があると回答した割合が50%を超えた。長期休暇中に多くの子どもが余暇レジャーを経験するが、経済的に困難な状況にある世帯では、余暇レジャーに割く費用が用意できないことが多いとわかる。

<4. 公的支援の認知度>

申請時の質問：以下の公的支援について知っていますか、または利用していますか。（任意、各単一回答、各制度の母数は（）内を参照
※各支援制度の対象以外の回答者を含むので、無回答は除外

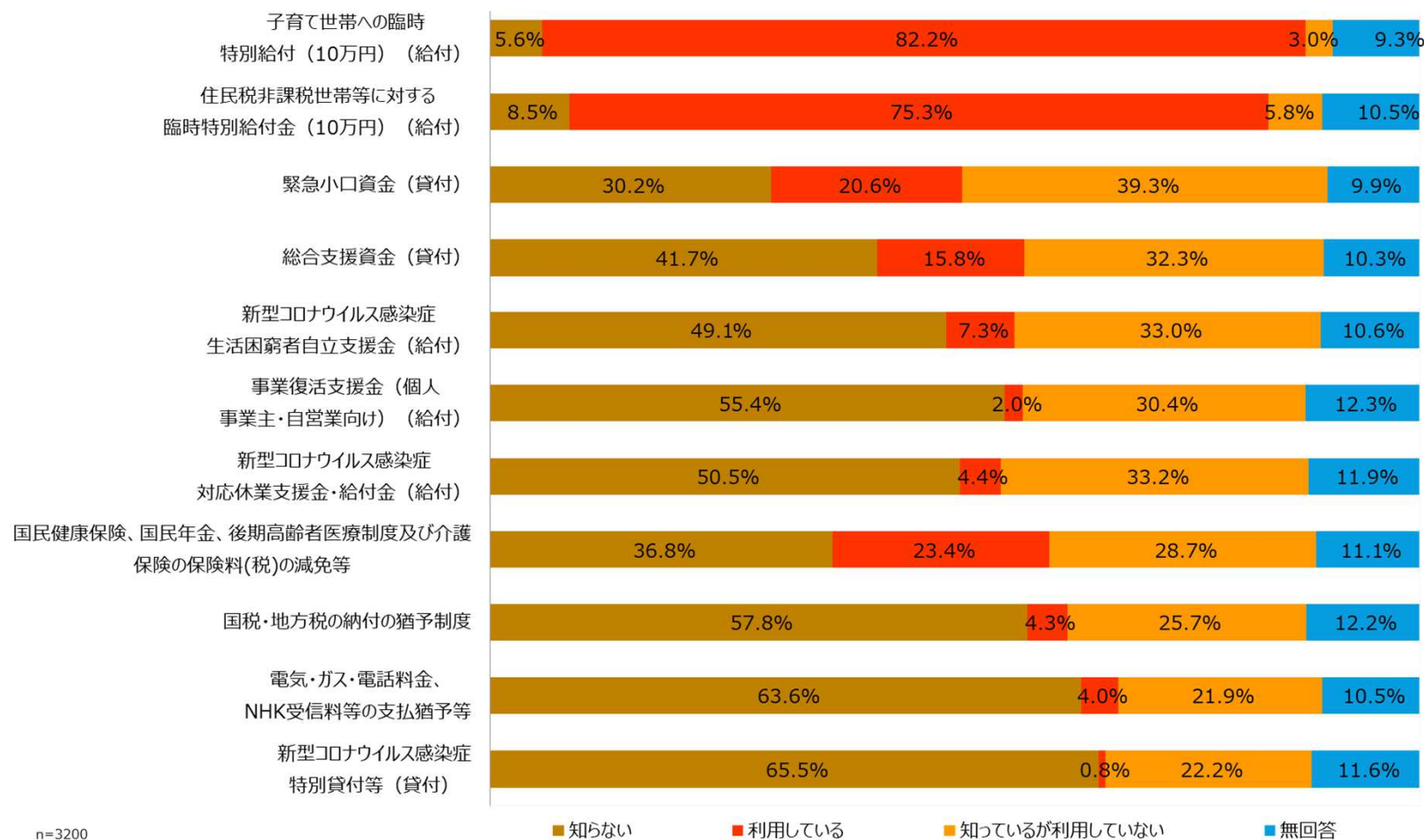


義務教育までの年代で使える制度については、回答者の多くが制度を知り、利用している。

一方、高校生以上の支援制度については、対象の子どもがいる世帯にとっても認知度と利用度がいまだに高い。

<5. 感染症対策の公的支援の認知度>

申請時の質問：以下の新型コロナウイルス感染症対策の公的支援について知っていますか、または利用していますか。（任意、各単一回答、有効回答数3,200世帯（人））

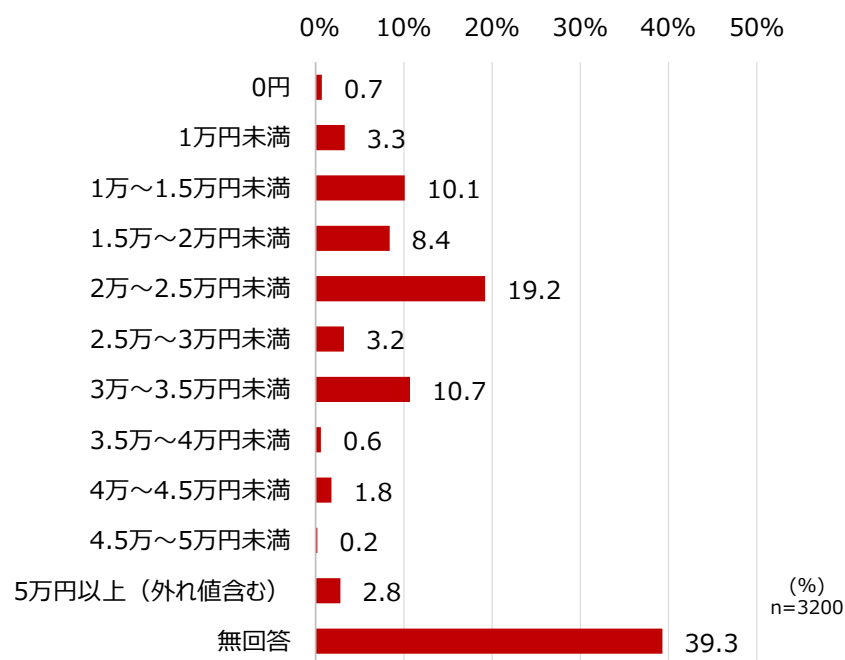


n=3200

7ページの各種公的支援の認知度と比べ、**感染症対策の特別支援に関しては、さらに認知度が低い。**

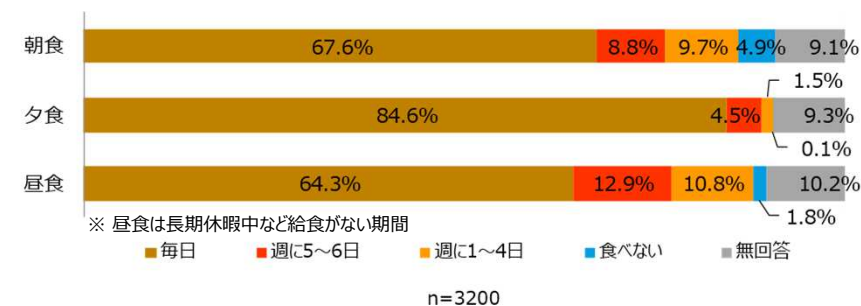
< 6. 子どもたちの食をとりまく状況 >

申請時の質問：夏休みに給食がないことでどれくらい出費が増えますか。
(任意、記述式)

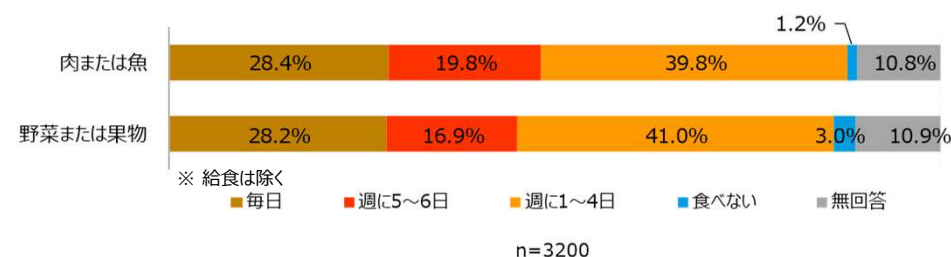


夏休みに給食がないことで、平均2.2万円（中央値2万円）の出費が増えることがわかった。

申請時の質問：子どもは週にどれくらい食事をしていますか。
(任意、各単一回答)



申請時の質問：子どもは週に肉や魚、野菜や果物をどれくらいの頻度で食べますか。
(任意、各単一回答)



食事の頻度が低く、また、肉や魚、野菜や果物を摂取する頻度が低い家庭が一定数存在することがわかった。

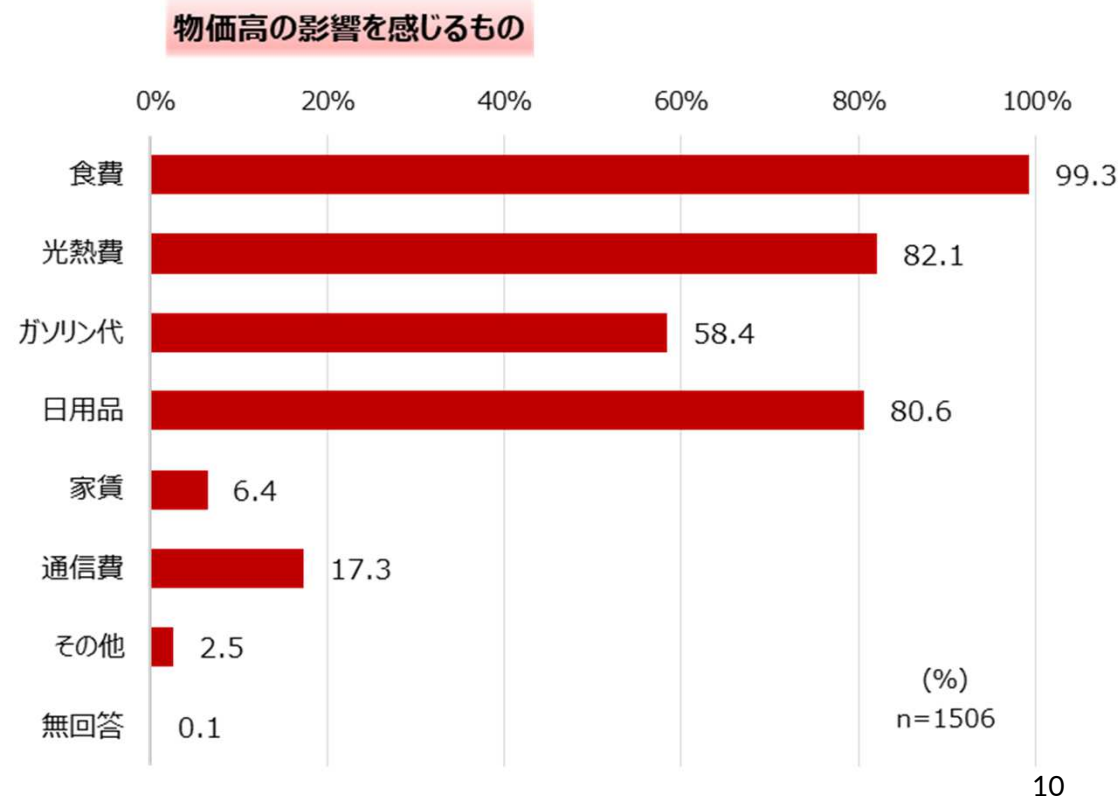
<7. 物価高の影響> 利用後アンケートより（回答数1,544件）

事後アンケートの質問：物価高の影響を感じますか。
（任意、単一回答）



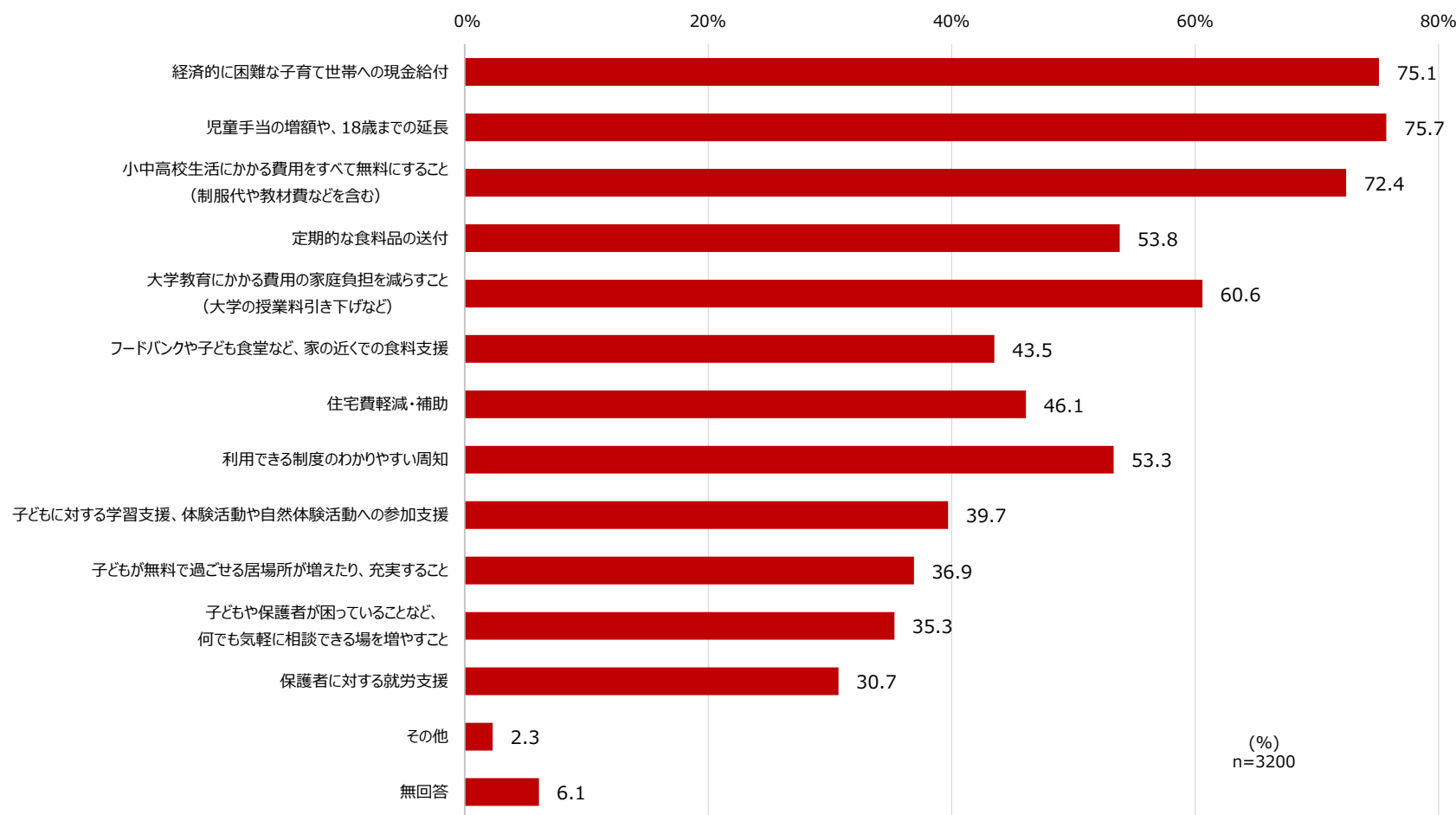
**回答者の97.5%が物価高の影響を感じると回答した。
特に食費は99.3%、光熱費は82.1%など、生活の欠かせない部分で物価高の影響を感じている世帯の割合が多い。**

事後アンケートの質問：物価高の影響を感じるものはなんですか。
（任意、複数回答）



< 8. 必要な支援について >

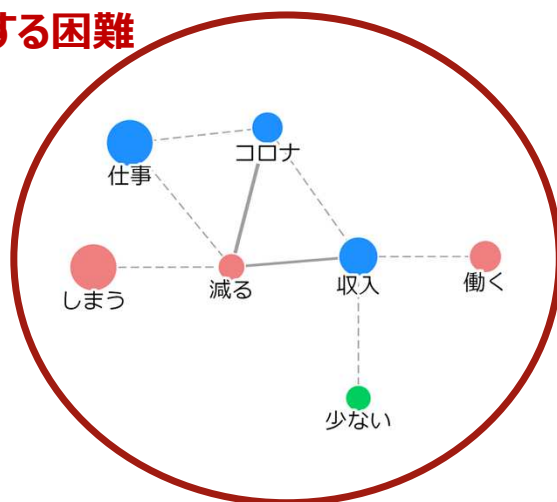
申請時の質問：子育てをしていくうえで必要だと思う支援はなんですか。（任意、複数回答）



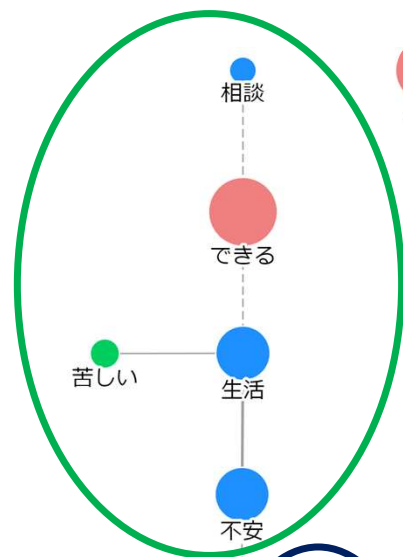
● その他の内容（一部）
・2人子供を育てています。下の子が発達障害(自閉症)をもっており、ひとり親に対する支援はすごく充実しているなと思う一方、発達障害児に対する支援はあまり充実されていない為、体験活動なども1人で2人を見きれないこともあり参加が難しい現状があります。きっと、お子さんが3人以上のひとり親の方も同じように1人では手一杯という部分をもっている方が多少なりともいるのではないのでしょうか。なので、ひとり親世帯への支援もとても有り難い限りなのですが、発達障害児の親御さんやひとり親で3人以上のお子さんを育てている方への支援も充実させていって欲しいです。（20代女性）

< 9. 困っていること、行政や社会に伝えたいこと> 自由記述欄より 共起キーワード

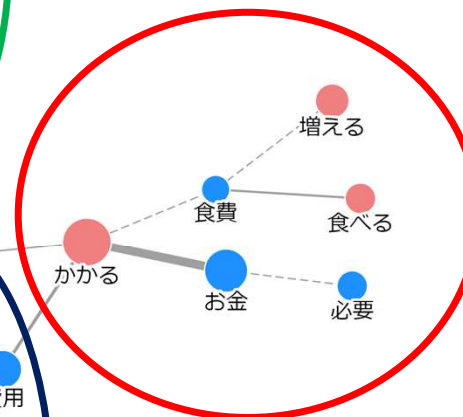
仕事に関する困難



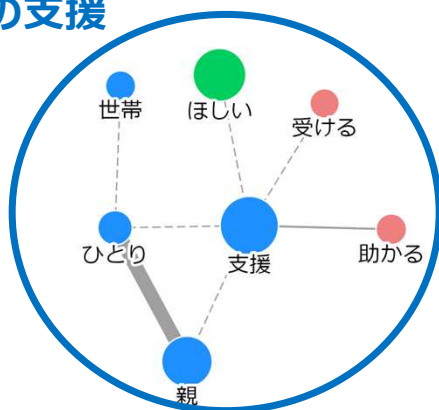
生活への不安



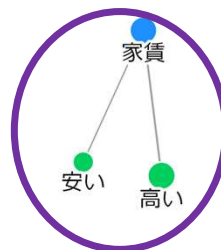
食費に関する困難



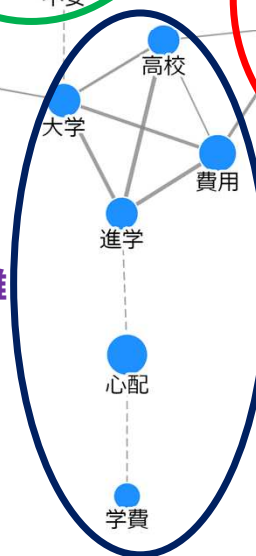
ひとり親への支援



家賃に関する困難



学費に関する心配



文章中出现する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図。出現数が多い語ほど大きく、また連想の程度が強いほど太い線で描画される。※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）

<9. 困っていること、行政や社会に伝えたいこと> 自由記述欄より 抜粋

<仕事に関する困難>

- ・ひとりで1人の子供を育てていることが不安です。変わりがいないのでなにがあっても子供のお世話が優先、仕事がありすぎていないため収入がほとんどありません。(30代・女性)
- ・収入が安定しないパートなので、毎月のやりくりが大変で、支払いに困ることも多いです。(30代・女性)

<生活への不安>

- ・経済的に逼迫しているので、もし怪我や病気で入院などしてしまうとどうになってしまうのかとゆう心配があります。また、医療従事者のため、長く続くコロナ禍で精神的にも疲弊し続けているので、このまま病気になってしまったらどうしようと不安が尽きません。(30代・女性)
- ・正社員で週末も祖父母に預けるなどして働いているが給料から諸々引くとマイナスの月もあります。貯金も僅か出来るか出来ないかで、先行きの不安しかありません。毎日子供との時間も余裕も無くイライラしかありません。ただこなす様に毎日生活しているだけ。そうゆう方、自分以外にも沢山おられると思います。(30代・女性)

<食費に関する困難>

- ・子供達がさらに食べ盛りになり、夏休みなど長期休みの食費が足りるのかとても不安です。(30代・女性)

- ・食料品の相次ぐ値上げや収入の減少で毎日食べていだけでもやっとの毎日です。今後息子が大きくなっていくにつれ、今よりも食費などがかかると思うと辛いです。(30代・女性)

<ひとり親への支援>

- ・非正規で働いていてひとり親で子供達に障害があります。自分が食べられなくてもいいのでとにかく子供には…と思って食べさせていますが、こんな生活がいつまで続くのか不安です。(30代・女性)

<家賃に関する困難>

- ・近辺（学区内）に県営や市営住宅が少なく入居できないので、民間のアパートを賃貸で住んでますが家賃が1番の出費となっていますので住居手当などがあるととても助かります。(30代・女性)

<学費に関する心配>

- ・大学進学をしたいようですが、最初に払う、入学金が払えない。子供にあきらめてとも言えず、苦しんでいます。勉強が好きだという、子供に、諦めてなんて言えるはずもなく、今、夜も働か、悩んでいます。(年代・性別無回答)

*自由記述は、原文のままです。ただし、明らかな誤字・脱字は修正したり、原文から一部を抜粋して文意が変わらない範囲で編集している場合があります。
() 内は回答者の年代・性別です。

<参考：支払い困難の経験に関するこれまでの調査結果との比較>

2021年に実施した食の応援ボックスにおいても、いくつかの項目について子どもに関わる費用の支払い困難経験について尋ねた*。下記はその比較表。ただし、2021年は「よくあった」「時々あった」「まれにあった」と回答した割合の合計、2022年は「あった」の割合。2021年のアンケート結果と比較して、「買えなかったことがある」と回答した割合は全体的に減少しているものの、いまだ高い割合で存在する。

申請時の質問：あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由により、子どもに関わる下記の経費が支払えないことがありましたか。
(任意、各単一回答。有効回答は、2021年夏は3,143、2021年冬は3,198、2022年夏は3,200世帯(人))

	日々の食料	新しい衣類	衛生用品	住宅費	制服など	部活動関係	オンライン学習費	塾等の学習費	入学金など進学費用	余暇レジャー
2021年夏	76.5%	84.1%	68.9%							
2021年冬	75.9%	83.5%	64.5%	38.8%	44.9%	30.1%	38.6%	35.2%	36.3%	
2022年夏	51.9%	66.8%	31.2%	29.7%	41.2%	27.7%	26.2%	29.5%	22.7%	54.3%

*セーブ・ザ・チルドレンが2021年の夏休み、冬休みにあわせて実施した「子どもの食 応援ボックス」利用者アンケート結果との比較による。ただし、対象者、対象者の居住地域は異なる。
2021年7月「夏休み 子どもの食応援ボックス」申込結果 <https://www.savechildren.or.jp/scjcms/dat/img/blog/3681/1631752835110.pdf>
2021年12月「冬休み 子どもの食応援ボックス」申込結果 <https://www.savechildren.or.jp/scjcms/dat/img/blog/3826/1644373040745.pdf>

なお、2021年に内閣府が行った「子供の生活状況調査」**で、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」である世帯において「日々の食料が買えなかったことがあるか」の問いに対し、「よくあった」「時々あった」「まれにあった」と回答した割合の合計は37.7%であったのに対し、今回のアンケートで「あった」と回答した割合は51.9%であった。また、同様に、同調査において「衣類が買えなかったことがある」割合は45.8%であったのに対し、今回のアンケートでは66.8%であった。

2017年に東京都が行った「子供の生活実態調査」***小・中学校5年生と中学校2年生に「過去1年間に海水浴や博物館などの体験をしたか」の問いでは、生活困窮層においては、小学5年生の保護者の約26%～約38%、中学2年生の保護者の約28%～約45%が、「金銭的な理由」でこれらの体験ができなかったと回答している。(全世帯の割合は2～5%)

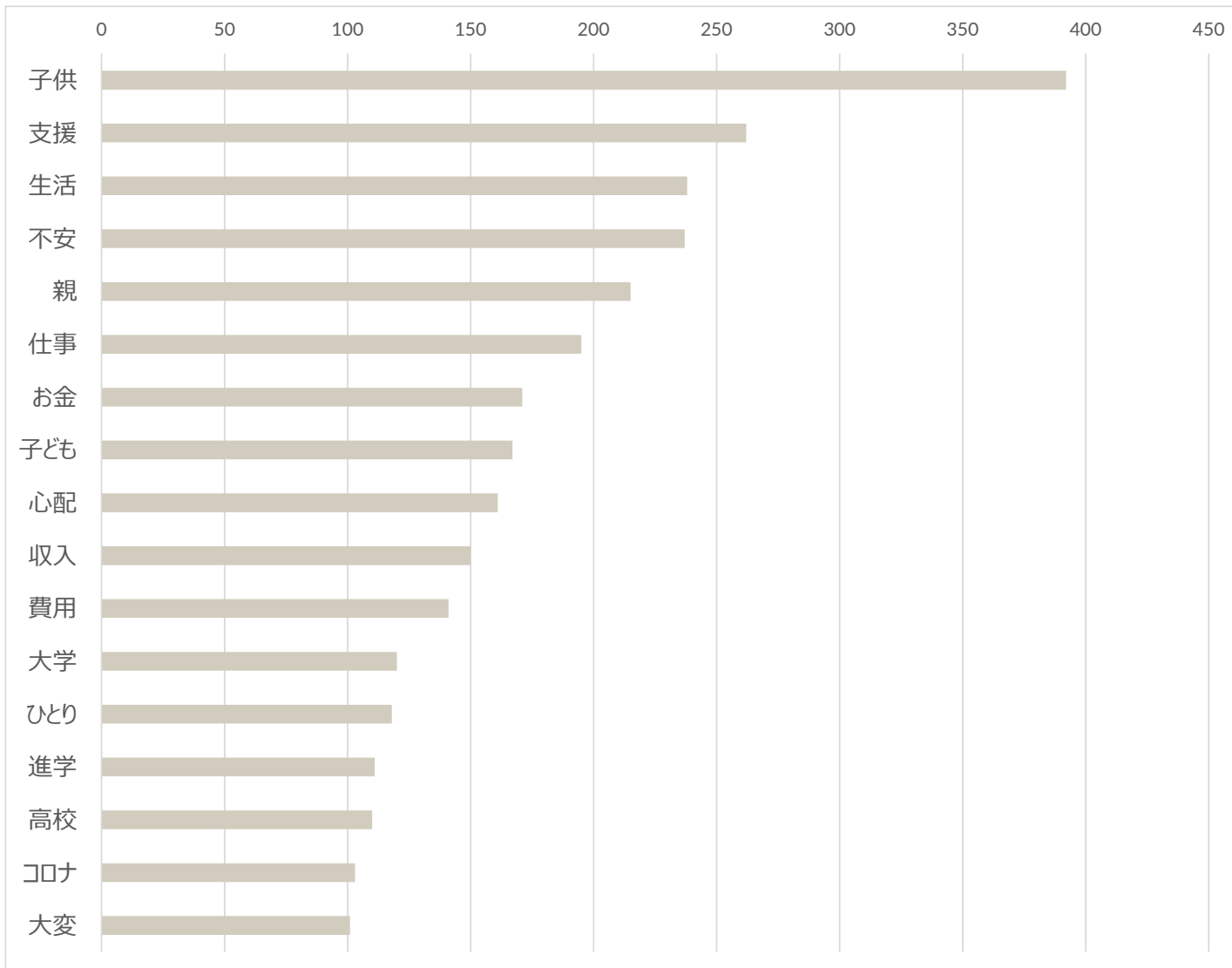
14

**内閣府『令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書』(2021年) <https://www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/chousa/r03/pdf-index.html>

***東京都『子供の生活実態調査』(2017年)

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/joho/soshiki/syoushi/syoushi/oshirase/kodomoseikatsujittaityousakekka.html>

<参考：困っていること、行政や社会に伝えたいこと> 自由記述欄より 出現頻度



「支援」や「生活」、「不安」など、
子どもとの暮らしを心配する語
句が多く見られた。

3,200人の自由記述（約10万文字）の文章中出现する単語の中から出現回数が100回以上の単語を表にしている。
※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析
（<https://textmining.userlocal.jp/>）